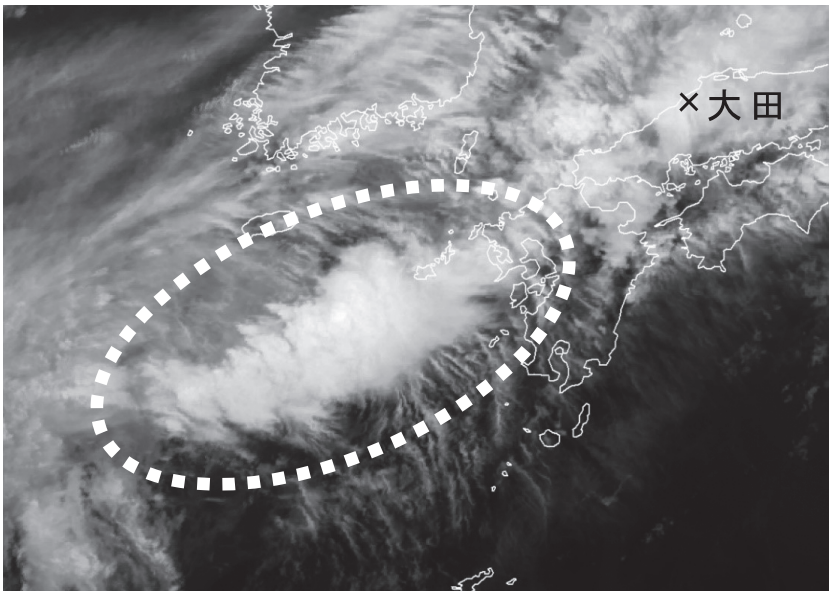
今月のひまわり画像―2022年４月

にんじん状の雲域による４月の大雨

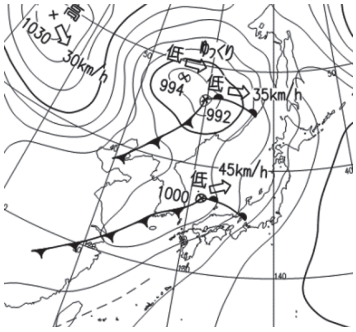


第１図　2022年４月26日10時（日本時間）の東シナ海付近の赤外画像．破線内は「にんじん状の雲域」の領域を示す．

第１図は2022年４月26日10時（日本時間）の東シナ海付近の赤外画像である．東シナ海から五島列島にかけて，発達した積乱雲域が連なっている．衛星画像では積乱雲域の先端にあたる九州の西海上には，先端が尖った形状をした「にんじん状の雲域」が発生している(図中破線内)．下層の収束帯に沿って積乱雲が次々と発達する状況が長時間継続することで形成されたものである．一見，発達した積乱雲から羽毛状の上層雲が吹き出してのびている状態と見た目での判別が難しいこともあるが，積乱雲の持続時間や雲組織の大きさから区別をつけやすく，線状降水帯が確認できることもある．今回の雲域では少なくとも継続時間は３時間以上あり，長さも数百 km にわたっていた．にんじん状の雲域が直接かかると，局地的な大雨や竜巻などの激しい現象を引き起こすので注意が必要である．

第２図は同日09時の地上天気図で，前線を伴った低気圧が日本海西部を東北東進しており，西日本は暖域内に入っていた．前線や低気圧に向かって，500m 高度の相当温位で336K 以上の暖かく湿った空気が流入し，同時刻の福岡の高層観測では850hPa 面で南西の風50kt（１kt≒0.51m/s）が吹き，暖気移流が強まっていた．午後になると積乱雲は中国地方へのび，島根県大田市大田では，26日の最大１時間降水量29.0mm，日降水量115.5mm を観測し，４月の極値を更新する記録的な大雨となった．

（気象庁大気海洋部予報課　河野麻由可）



第２図　2022年４月26日09時の地上天気図.